



きゅうり栽培を復活させた農家の山田幸雄さん、幸子さん夫妻。

## リサーチ「被災地のいま」

### 生産現場～宮城県石巻市

宮城県の沿岸、石巻市でも復興は始まったばかりです。多くの事業者が廃業や移転を余儀なくされる中、現地にとどまり、必死に立て直しに取り組む企業が存在します。生産拠点を復活させ、取引先を取り戻して経済的に立ち直るだけでなく、地域の希望にもなりつつあります。

## 孤独と戦いながらの 営業が続く

宮城県の太平洋沿岸、石巻市。見上げるほどあったガレキの山は、2年以上をかけた処理でなくなりつつありますが、町の復興は始まったばかりです。

石巻漁港や魚市場を中心に広がる水産加工団地には200社ほどの水産加工業者がありました。津波の被災や、港・市場の復旧を待たずに廃業や移転した企業は少なくありません。

そんな中、石巻漁港に近い明神町で被災し、必死に復興に挑むのが(有)ヤマユ佐勇水産です。震災当日は家族バラバラで避難し、全員が再会できたのが震災からひと月後でした。比較的被害の少なかった工場を新たな生産拠点として2011年秋に営業を再開



ヤマユ佐勇水産の佐藤由隆社長と尖子さん夫妻。新工場には、「心ひとつに」「いまからここから」の文字が。

石巻漁港の東、渡波地区で工場と店舗が被災した高砂長寿味噌本舗は、震災後、社長以下、従業員10人以上が店舗の2階で暖房もない中、ひと月の共同生活に耐えました。震災3週間後に無事だった東



高砂長寿味噌本舗の東松島工場と高砂光延社長。



しました。13年6月に新工場の竣工で本格的に復活しましたが、周辺の同業者のほとんどが廃業か移転で姿を消し、孤独と戦いながらの営業が続きます。新しい工場がこの土地の希望の象徴です。

## 地域で待ち望まれていた 味噌と醤油が復活

松島工場と連絡がつき、5月初めから味噌の製造を再開、渡波の工場でも4カ月がかりの後片付けの後、7月から醤油の製造を再開しました。主力商品の濃口醤油は、その年の仙台味噌醤油品評会醤油部門で最高賞を受賞するほどの品質。地域では飲食店をはじめ、食品の調味料として同社の味噌や醤油を使っている業者は数多く、誰もが復活を喜びました。

## 一歩一歩進みながら きゅうり栽培を再開

沿岸から1kmほど内陸できゅうり栽培を営んでいた農家の山田幸雄さんは、所有する700坪の巨大なハウスに津波が流れ込み、収穫中のきゅうりをすべて失いました。しかし、直後からジャッキでハウスの支柱を持ち上げ、2、600坪にも及ぶ敷地内の泥をかき出し、11年夏、塩害が心配されましたが栽培を再開、何とか復活を遂げました。生協産直きゅうり部会仲間の6軒の農家には命を落とした人、大きな被害を負った人がおり、一時は一軒できゅうりを作り続けましたが、今はまた仲間が増え始めています。

(文・写真 山本明文)